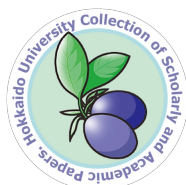




|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 現代イランの女性労働：生活調査からみる現地事情の一考察                                                       |
| Author(s)        | 村上, 明子                                                                            |
| Citation         | 地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 4, 135-145                                                  |
| Issue Date       | 2015-03-30                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/58407">https://hdl.handle.net/2115/58407</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 24135Murakami.pdf                                                                 |



## <研究ノート>

# 現代イランの女性労働 ー生活調査からみる現地事情の一考察ー

村上 明子

【要 約】独自の内的発展理論を掲げる現代イランでは、男女の役割や社会的配置がイスラーム・ベースの世界観によって導き出されている。筆者は2014年9月から10月にかけて、イランの首都テヘラン市を中心に女性たちの生活実態把握に向けて予備的調査としてアンケート調査を行った。今後の調査では、彼女たちのより具体的な状況を把握し、公的統計では伺い知ることのできないイラン女性の活動実態を明らかにしていきたい。なおそのためには、対象者ごとに調査手法の選定を行うことが好ましいと考えられる。

【キーワード】労働市場、イスラーム、性別役割規範

## はじめに

独自の内的発展理論を掲げる現代イランでは、男女の役割や社会的配置がイスラーム・ベースの世界観によって導き出されている。筆者はこれまで労働市場を対象に現地調査を行っており、特に女性労働者の行動様式と思考パターン、そしてライフコース設計の検討を重ねてきた。その結果、イラン労働市場と女性ホワイトカラー層の形成メカニズムの現代イランの特徴として、以下の三点が明らかとなっている。

一つは革命後35年という歳月が経ち、階層の固定化傾向が顕著になっていることである。二点目として、統治機構の硬直化によって社会全体に猜疑心が充満しており、かかる状況下では社会ネットワークの活用が重要な意味を持つことが挙げられる。第三に、イランにおける性別役割規範は女性の活動に制約を加える側面だけではなく、場合によっては女性の人生の選択肢の幅を広げる可能性もあると言えるだろう<sup>1)</sup>。

他方で、現代イランの女性労働について、その全体構造を解明するにあたりいくつかの課題も明らかとなっている。特に大きな問題として、女性労働の統計的な評価が現地の実態と乖離している

ことが挙げられる。同国では経済活動人口として公式統計で活動状況が明らかになっている女性が少なく、女性の従来の活動実態が見えづらい。他方で、女性が労働市場に参入するか否かを決定する時期やその要因についても十分に検討されているとはいいがたい。周知のとおり、女性の就業は結婚・出産・子育て等のライフイベントと密接に関わっており、家族関係や経済状況などの諸事情とのバランスを考慮しながら労働市場への参入・退場・再参入が図られるが、イランの場合はかかる決定に関してイスラーム・ベースの性別役割規範が大きく影響すると考えられている。

以上を踏まえて2014年9月から10月にかけて、イランの首都テヘラン市を中心に女性たちの生活実態を把握するためアンケート調査を行った。ただし今回の調査はあくまでも予備的調査であり、主な目的は調査方法や検討課題の精査である。今後段階的に女性のライフイベントの決定要因の把握やそれに対する現地固有事情の影響を検討したいと考えている。例えば、結婚の時期や相手はどのように決定されるのか、次のライフステージに備えた行動パターンが見られるのか——等である。

また分析視角の特徴については、就業中の女性のみならず非経済活動人口にカテゴライズされる

1) 村上(2011)、(2013)参照。

女性たちにも着目したことが挙げられる。前述のとおりイラン女性の多くは統計的には非経済活動人口として分類されているが、その実態についてはアンパイドワークやシャドウワークに従事する主婦層も少なくないとされる<sup>2)</sup>。また地域活動や親戚・友人との付き合いなど、社会ネットワークを維持する上でも彼女たちの活動が持つ意義は大きい。すなわち本研究は、イラン女性の活動について生産領域と再生産領域の両側面からの包括的な検討を目指す上での一過程と位置づけられる。

以下では、まず現在のイラン女性の労働に関する最新の指標を概観したのち、調査結果の分析を行う。最後に調査の過程で浮き彫りになった問題点を明らかにし、今後の調査設計について展望を述べる。

## 1. 女性労働をとりまく社会状況

現代イランは過去35年の間に革命－戦争－戦後復興－経済制裁という経緯を辿ってきた。こうした固有事情によって、社会構造に特殊イラン事情ともいえるべき特徴が看取されている。

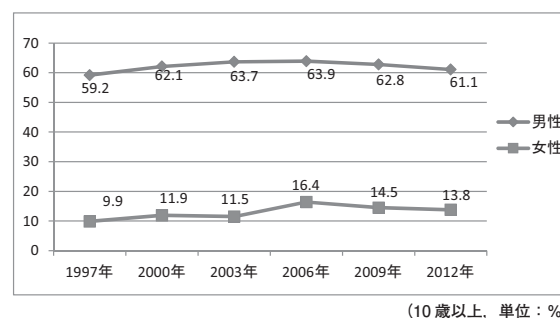
まず挙げられるのは、女性の経済活動人口比率の低さである。図1は、経済活動人口比率の推移を男女別に示している。また表1は男女別の経済活動人口の趨勢を示している。これらより、女性の経済活動人口比率が伸び悩む一方で学生数が伸びていることと、大半の女性が主婦である状態が続いていることが分かる。

このように女性の経済活動人口比率が伸び悩んでいる背景には、イスラーム・ベースの性別役割

規範が作用していることと、革命後の人口動態といった特殊イラン事情が指摘されている。例えば、エーゲルとイスファハーニー（2010）は、戦中のベビーブームがもたらした若年層の肥大化による経済・社会構造の歪みを実証している。かかる独特の人口構造によってイラン労働市場の需給構造は近年特に逼迫しており、特にそのあおりを受けているのが女性とされている。

例えばイラン統計センターによる直近の労働統計によると、女性の失業率は19.4%に上っており男性9.0%の2倍超の水準となっている。また年齢別にみると、15歳から29歳の女性の失業率は41.6%に達している。同年齢層の男性失業率が17.9%であることから、男女の就業ギャップが大きいことに加えて、特に若年層でその傾向が顕著であると言えるだろう<sup>3)</sup>。

他方で、イラン経済の深刻な問題と言えるインフレーションについては、改善の兆しが見えていない。革命後のイランは常にインフレ問題に悩まされ続けてきたが、近年においては2012年3月にEUがイラン産原油の全面禁輸措置を決定して以降、特にこの問題が先鋭化している。2013/14年度におけるインフレ率は前年比34.7%という驚くべき値を記録しており<sup>4)</sup>、こうしたインフレ



出所: Statistical Center of Iran, Employment and Unemployment Indices Nationwide 1376 - 1391より筆者作成。

図1 経済活動人口比率の推移

2) イラン統計センターが2002/03年度冬にまとめた報告書『イランにおけるインフォーマルセクター測定方法』の中で、非経済活動人口として分類されている女性達の労働実態に言及している。同書が彼女たちの具体的な就業内容として挙げているのは、小規模零細家族経営業態におけるアンパイドワーク、個人契約の家政婦、家庭教師、出張美容師、占い師などである。なお筆者が知る限り同様の報告書はこれ以降、出されていない模様である。なお現在イランで採用されているイラン暦はゾロアスター教の伝統を基にした太陽暦で3月21日を元旦とする。そのため1年を西暦換算した場合、複数年をまたぐ形となる。例えば、本稿執筆時はイラン暦1393年であり、西暦に換算すると2014年3月21日～2015年3月20日となる。

3) Statistical Center of Iran, A Selection of Labor Force Survey Results - Spring 1393 (21 March 2014-21 June 2014) 参照。

4) Central Bank of Iran, Economic Trends No.75, Fourth Quarter 1392 (2013/14) 参照。なお、2010/11年度の年平均インフレ率は12.4%（出所: Economic Trends No.63）、2011/12年度の数値は21.5%（出所: Economic Trends No.67）、2012/13年度は30.5%（出所: Economic Trends No.71）となっている。

表 1 経済活動人口の趨勢 (単位: 千人)

|    |       | 経済活動人口 |       | 非経済活動人口 |        |       |       | 不明  |
|----|-------|--------|-------|---------|--------|-------|-------|-----|
|    |       | 就業者    | 失業者   | 学生      | 主婦/主夫  | 不労所得者 | その他   |     |
| 男性 | 1956年 | 5,334  | 157   | 499     | ×      |       |       | 0   |
|    | 1966年 | 6,172  | 636   | 1,331   | ×      |       |       | 0   |
|    | 1976年 | 7,587  | 760   | 2,778   | ×      | 427   | 244   | 0   |
|    | 1986年 | 10,026 | 1,486 | 3,871   | 159    | 428   | 797   | 74  |
|    | 1996年 | 12,806 | 1,184 | 6,678   | 120    | 935   | 965   | 334 |
|    | 2006年 | 17,695 | 2,145 | 6,565   | 60     | 1,863 | 1,691 | 225 |
|    | 2011年 | 17,835 | 2,696 | 6,105   | 109    | 2,275 | 2,459 | 325 |
| 女性 | 1956年 | 573    | 2     | 186     | 4,964  |       |       | 0   |
|    | 1966年 | 944    | 90    | 610     | 6,017  |       |       | 0   |
|    | 1976年 | 1,212  | 237   | 1,664   | 7,707  | 240   | 146   | 0   |
|    | 1986年 | 975    | 333   | 2,659   | 11,011 | 135   | 804   | 117 |
|    | 1996年 | 1,765  | 272   | 5,955   | 13,073 | 362   | 733   | 218 |
|    | 2006年 | 2,782  | 847   | 6,552   | 15,998 | 1,111 | 1,698 | 291 |
|    | 2011年 | 2,712  | 864   | 5,944   | 18,845 | 1,146 | 1,608 | 318 |

出所: Markaz-e Āmār-e Iran, Salnāme-ye Āmār-e Keshavar 1391.

(イラン統計センター, 『イラン統計年鑑 2012/13 年度』。)

※『イラン統計年鑑』各年度版についてはイラン統計センターウェブサイト

<http://www.amar.org.ir/default.aspx> より入手可能。

状況に対して、給与の伸びは十分に対応していないとされる。

イスラーム・ベースの社会統合論理が機能しているイランにおいては、「男性は外で稼ぎ、女性は家の中を切り盛りする」といった性別役割規範が強固に作用している。したがって、インフレによって生活状況が苦しくなったとしても、妻が家庭外で働くことを忌避する男性は一定数存在する。そうした場合、妻は内職や知人の手伝いなど、いわゆるインフォーマルセクターの業務に従事するため、女性の労働の一定数が隠れてしまうこととなる。いずれの地域でもインフォーマルセクターの実態把握については困難が多いが、イランにおいては、イスラーム的価値観がその「見えづらさ」に影響を及ぼしていると言える。

したがって、イラン女性の経済活動状況を把握するためには、労働市場のみを対象とするのではなく生活全般を考慮した調査設計が重要であると考えられる。

## 2. 調査結果

以上を念頭に置きながら、本節ではイラン社会の固有事情を確認し、女性特有の課題を把握・整理していく。加えて調査協力者からのコメントも考慮することで、イランにおける社会調査の留意

点についても指摘するものとする。なお調査時における為替レートは1円=約290リヤル(自由市場レート)であった<sup>5)</sup>。

### 2-1. 現地調査の概要

筆者は2014年9月から10月にかけて、テヘラン市を中心に「生活状況に関する調査票」と題したアンケート調査を実施した。調査の実施に際しては、i) 調査協力者の追跡ならびに再調査の依頼が可能であること、ii) 調査票の設計についても意見聴取ができること—これら二点を重視したため、知人を介して調査票を配布する形をとった。したがって調査対象者にある種のバイアスが生じている可能性は否めない。また、調査内容の詳細は巻末資料のとおりであるが、調査対象者たちの意見を取り入れて適宜修正を加えながら調査を進めたため、選択肢や文章表現、レイアウト等に調査の過程で若干の変更が生じている<sup>6)</sup>。

5) 公定レートは自由市場レートよりリヤルが2～3割高く評価されている。なお同時期のイラン中央銀行発表の為替レートは1円=約240リヤルであった。

6) 選択肢に変化があった項目は、質問4-3の所得水準ならびに質問4-4の支出項目である。前者については、イラン中央銀行発表の最低賃金水準をもとに①200万里ヤル未満、②200万里ヤル以上300万里ヤル、③300万里ヤル以上400万里ヤル未満、④400万里ヤル以上500万里ヤル未満、⑤500万里ヤル以上600万里ヤル未満、⑥600万里ヤル以上700万里ヤル未満、⑦700万里ヤル以上800

調査票はテヘランを中心に、テヘランの近郊都市キャラジやカスピ海沿岸の観光地でありギーラーン州の州都であるラシュトとその近郊市町村<sup>7)</sup>、そして古都エスファハーン周辺でも配布を依頼した(図2参照)。地方在住者を対象に含めた理由は、テヘラン市の特徴を相対化することに加えて、地域偏差が大きいとされるイランにおいて、全国横断的な量的調査の実施が可能かどうか検討するためである。

また調査対象者については、公務員や自営業者、近年活動が注目されるNGO関係者、労働市場への将来的な参入が期待される学生層、そして主婦層など、現代イランの女性像を象徴する典型例にアプローチするよう配慮した。同時に、課題の相対化を図るため、男性にも回答を依頼した。

最終的に56人から回答を貰い、うち無効回答は2部であった。調査時間とイラン独特の社会情勢という物理的・制度的制約のため改善の余地が大きく残る調査となったことは否めないが、イランの現在を知るための一定の手がかりは得られた

ものと思われる。

## 2-2. 回答者の特徴

表2-1は居住地ごとの回答者数とその平均年齢、学歴構成をまとめたものである。

なお、回答者の年齢分布について、テヘラン、キャラジ在住の女性の最高齢は65歳で最年少は24歳、同カテゴリーの男性についてはほとんど年齢の幅がなく(最高38歳/最少31歳)、またギーラーン州内在住者について回答者は女性のみで構成されており、その最高齢が70歳、最年少が19歳であった。

学歴水準については、テヘラン、キャラジカテゴリーの回答者が男女ともに非常に高く、全ての回答者が大卒以上であり、その半数は修士号取得者であった。他方でギーラーンカテゴリーの回答者については、大卒が6名(大学在学中の者を含む)、高卒が7名であり、本調査における居住地ごとの学歴水準には顕著な差が見られた。このような差異は、教育水準の地域格差に由来するもの



図2 調査対象者の所在

万里ヤル未満, ⑧ 800万里ヤル以上900万里ヤル未満, ⑨ 900万里ヤル以上1,000万里ヤル未満, ⑩ 1,000万里ヤル以上2,000万里ヤル未満, ⑪ 2,000万里ヤル以上5,000万里ヤル未満, ⑫ 5,000万里ヤル以上という12の選択肢を用意した。しかし調査協力者との情報交換の結果、巻末資料の通りの6段階の選択肢となった。後者については、後から⑬薬・医療費を追加した。

7) カスピ海沿岸の都市はリゾート地として人気が高く、テヘラン市居住者を中心にイラン国内から多くの観光客が訪れている。またその多くが当地に別荘を所有しており、在来の生活と変化の早い大都市居住者の価値観とが入り混じった独特の雰囲気を持している。

ではなく、調査対象者を選定する時点で偏りが生じていたものと思われる。

また回答者のエスニックグループについても居住地ごとの差は大きく、イランの地域偏差を如実に表す結果となった（表 2-2 参照）。なお、イランにおけるエスニックグループへの帰属については、言語の使用状況や宗教・宗派と密接に関わっていることから、生活習慣や社会ネットワークの形成論理にも影響を与えることが少なくない。実際に、エスニックグループがファルシー（ペルシャ）以外の者の多くが、ギーラーキー語やロル語、アーゼリー語などのエスニック言語も使用していると回答している。他方で高学歴者層が多かったこともあり、外国語を習得している者が多数確認された。具体的には、英語 38 名、ドイツ語 4 名、ア

ラビア語 2 名、日本語 2 名、フランス語とスペイン語が各 1 名である。革命後のイランでは、不安定な社会情勢や硬直的な政治体制を嫌って、外国移住を希望する者が後を立たない。本調査の結果からも、イラン独特の社会事情を背景にした英語習得熱の高まりが垣間見えよう。

## 2-3. 回答者の活動状況

回答者の活動状況の概要は表 2-3 の通りである。

活動の具体的な内容については、テヘラン・キャラジ居住者で就業中と答えた女性のうち最も多かったのは公務員の 6 名である。公務員はイランにおける女性労働の典型職の一つであるが、そこへの入職経路については、全員が「友人・知人の

表 2-1 回答者の概要

| 居住地         | テヘラン, キャラジ |      | ギーラーン州市内町村<br>(ラシュト含む) |     | エスファハーン<br>近郊 |      | 無回答  |      |
|-------------|------------|------|------------------------|-----|---------------|------|------|------|
| 回答者数<br>(人) | 女性         | 男性   | 女性                     | 男性  | 女性            | 男性   | 女性   | 男性   |
| 26          | 22         | 4    | 15                     | 0   | 5             | 4    | 6    | 2    |
| 平均年齢(歳)     | 33.4       | 33.7 | 32.5                   | n/a | 30            | 35.3 | 33.7 | 33.0 |
| 学歴 高校       | 1          | 1    | 7                      |     | 1             |      | 1    |      |
| 大学          | 11         | 1    | 7                      |     | 1             |      | 3    |      |
| 修士          | 11         | 2    |                        |     |               | 1    | 1    | 1    |
| 博士          |            | 1    |                        |     |               | 2    |      | 1    |
| 無回答         |            |      | 1                      |     |               |      | 1    |      |

出所：筆者調査より作成。

表 2-2 回答者のエスニックグループ（単位：人）

|        | テヘラン, キャラジ | ギーラーン州市内町村<br>(ラシュト含む) | エスファハーン<br>近郊 | 居住地<br>無回答 |
|--------|------------|------------------------|---------------|------------|
| ファルシー  | 12         | 0                      | 4             | 2          |
| アーゼリー  | 5          | 1                      | 1             | 0          |
| ギーラーキー | 0          | 12                     | 0             | 3          |
| ロル     | 2          | 0                      | 1             | 1          |
| その他    | 6          | 0                      | 0             | 0          |
| 分からない  | 0          | 0                      | 0             | 1          |
| 無回答    | 1          | 2                      | 0             | 0          |
| 計      | 26         | 15                     | 6             | 7          |

出所：筆者調査より作成。

表 2-3 回答者の活動状況

|           | テヘラン, キャラジ |    | ギーラーン州市内町村<br>(ラシュト含む) | エスファハーン近郊 |    | 居住地<br>無回答 |    |
|-----------|------------|----|------------------------|-----------|----|------------|----|
|           | 女性         | 男性 | 女性                     | 女性        | 男性 | 女性         | 男性 |
| 就業中       | 14         | 3  | 4                      |           | 4  | 1          |    |
| その他の活動に従事 | 8          | 1  | 9                      | 1         | 1  | 5          | 1  |
| 無回答       |            |    | 2                      |           |    |            |    |
| 計         | 22         | 4  | 15                     | 1         | 5  | 6          | 1  |

出所：筆者調査より作成。

紹介」と回答している。

安定的でかつ勤務条件に恵まれている正規職の就業に際して社会的ネットワークの活用が重要である様子はこれまでも指摘してきたが、かかる状況は公的部門にもある程度当てはまると言えそう。また自営業（稽古事の講師）の女性2名より回答を得ることが出来た。それぞれピアノと折り紙を教えているとのことであり、彼女たちに共通するのは情操教育に対する熱意<sup>8)</sup>と仕事に対する家族の理解と後押しである。なお折り紙講師の女性はNGOを立ち上げ、そこでの啓蒙活動も行っている。自己実現の場を自ら開拓している人物と言えるだろう。

他方でこの地域居住者のうち、「就業中ではない」と答えたものの、実際には賃金労働に従事している者が2名確認された<sup>9)</sup>。両名とも女性であり、その具体的内容はパートタイムの緑地管理業務<sup>10)</sup>である。緑地管理業務に関しては、この業務に「就業中である」と答えた者も3名おり（3名とも女性）、「仕事」と認識している者と「地域活動」「有償ボランティア」といった位置付けの者がいることが見て取れる。こうした認識のギャップが何に由来するのか、イラン人女性の就業意識や自己評価と密接に関わる部分であるだけに今後更なる検討が求められよう。なお、緑地管理業務について、回答者の一部はNGOの職員として従事していた。イランでは近年、環境問題への取り組みが認知され始めており、NGOはこうした新たな価値観と活動を社会全体で共有していくための担い手として、また折り紙講師の例のように女性の活躍の場としても大きな期待を集めている。労働需給が逼迫し就業機会が限られているイランでは、女性のキャリア形成や自己実現の場

として今後NGOの重要性が増していくと思われる。

他方で、地方在住の女性については、就業中と答えた者が相対的に少なく、それ以外の活動に従事している者の中では「主婦」「学生」と答えた者が数名いるものの、具体的な活動内容に言及しない回答者が6名となり多数を占めた。その理由として、調査時の活動状況を端的に表す言葉が見つからなかったこと、また質問の意図する内容が十分に伝わらなかったことなどが考えられる。地方在住女性の学卒後の活動については、家庭外での就業に難色を示す保護者も少なくない。その結果、家業や家事の手伝い、内職などに従事するものの「働いている」という意識が希薄なケースが未だに多く、これが女性の活動状況を見えづらくする要因となっている。また主婦業に携わっているとしても未婚者の場合、家庭内を切り盛りするという認識よりも親の庇護下にあるという認識の方が強く、それゆえ主婦アイデンティティも未形成であると考えられる。

したがって、地方在住の女性の活動状況はもとより、それに対する自己評価についても観察や評価手法の改善の余地が大きいと考えられる。

## 2-4. ライフイベントの背景と特徴

ここでは、人生の節目である就学と結婚というライフイベントについて、調査票で明らかになった特徴について概観する。

まずは回答者で就学中である者について、顕著な特徴として挙げられるのは学費の高さである。テヘラン・キャラジ居住者の女性の中で、高等教育機関に在学中で学費を支払っている者が4名おり、その学費は1ターム1,000万里ヤル（約44,000円）から4,000万里ヤル（177,000円）と現地の物価水準からするとかなりの高額となる。イランでは国立大学の学費は大学院も含めて通常無料であることから、回答者の多くが私立大学の学生であると推測される。また、勉学と仕事を両立させている回答者もあり、教育機関の出口と労働市場の入り口が一方通行で結ばれているのではなく、その入退出のあり方が多様である様子

8) 折り紙講師は「情操教育を充実させて子供達や親が潜在能力を引き出す教育に興味を持ってくれることで、子供たちの今後の人生に様々な選択肢が存在することを示せるだろう」との見解を示している。

9) テヘラン、キャラジ居住の女性で「就業中ではない」と答えたその他の回答者の状況については、主婦が2名、学生が4名であった。

10) テヘラン市では2001年に就任したマーレキマダニー市長の下で環境整備と雇用創出を目的とした緑化政策が進められ、現在もこの方針は受け継がれている。

表 2-4 結婚の決め手（上位3つを選択）

| 人柄 | 家柄 | 家族の意見 | 学歴 | 外見 | 経済状況 | 家庭の状況 |
|----|----|-------|----|----|------|-------|
| 22 | 20 | 12    | 6  | 5  | 4    | 2     |

出所：筆者調査より作成。

が伺える。

他方で男性については、兵役という男性特有のライフイベントが存在するため、大学進学は女性のそれとまた違った意味を持つ。イランの兵役は18歳以降の男性に2年間を基本として課されるが、高等教育就学期間は猶予されることに加え<sup>11)</sup>、博士課程への進学やその後の研究活動の成果および進路によっては短縮・免除されるケースもある。なお兵役義務を終えていない成人男性は出国が制限されており、本調査においても「生活する上で大変なことは？」という自由記入の質問に対して、「国の外に出ること」「海外旅行」といった声が男性回答者より寄せられている。イスラーム・ベースの社会関係から女性への抑圧に注目が集まりがちなイランであるが、男性に課されている社会的責任の重さを考えることも本研究の目的からすると重要な検討課題であると言えるだろう。

次に結婚について、回答者のうち既婚者は女性21名、男性5名であった。彼ら／彼女らが配偶者と知り合った状況を表2-4に、また結婚を決める際に重視したことを表2-5にまとめた。

これらの結果から、結婚というライフイベントに際して、社会ネットワークの果たす役割が大きいこと、そしてイランでは結婚の際、両親の許可が必要という現実もあり「家柄」や「家族の意見」を重視するといった具合に、結婚の決定に際し家族単位での視点を尊重する状況が伺える。その一方で、重視するとの回答が最も多く集まったのが「人柄」であるという事実から、家族単位での視点を重視しながら同時に個人としての価値判断にも重きを置く様子が見て取れる。これまでの調査で筆者が明らかにしたように、社会が猜疑心で満ち溢れている状況であるからこそ社会ネットワー

表 2-5 配偶者とどのようにして知り合ったか

| 家族・親族からの紹介 | 友人・知人からの紹介 | 学校 | 職場 | パーティ | その他 |
|------------|------------|----|----|------|-----|
| 12         | 4          | 4  | 2  | 2    | 2   |

出所：筆者調査より作成。

クが重要な役割を果たしている状況と同時に、ライフイベント時における自身の判断を積極的に評価しようとする姿勢も読み取れる結果となった。

ちなみに、最近のイランでは平均初婚年齢の上昇が指摘されており、その原因として経済事情の悪化や女性の高学歴化が挙げられている<sup>12)</sup>。実際、問6の「6-2 現在、生活をする上であなたが困難に感じていることは何ですか？」という質問に対して「結婚」と答えた男性が2名いた。結婚に際しては高額な婚資金の用意など、イランでは男性側の経済的負担が大きいとされている。彼らが具体的にどのような困難を感じているのか追跡調査を行っていきたい。

## 2-5. 本調査で明らかになった問題点

調査の結果、明らかに回答者の反応が思わしくない項目があった。また、調査の過程でベルシャ語表現やレイアウトの問題も含めて様々な改善点を指摘された<sup>13)</sup>。以下に特に重要と思われる課題を記し、今後調査を進めていく上での留意点としたい。

最も大きな問題と思われるのは、就業状況／活動状況について回答者からの情報を適切に引き出せなかったことである。この点に関しては先にも

12) Rezai-Rashti and Moghadam (2011) 参照。

13) 例えば冒頭の説明文に、本研究の課題名「現代イランの女性労働」を記して男性回答者に渡したところ「私はこの調査票の対象者ではない」と回答を拒否されるケースがあった。また当初は全ての選択肢に番号を割り振っていたが、数字の順番が意味を持つのではないかという質問や不安が多く寄せられた。回答者を限定する質問（例えば問2の場合、質問2-1の回答内容によって次の質問項目が変わる）についても、文章による説明だけでは戸惑いが見られたため、女性限定の質問は枠線で囲むなど、イラン人の視覚的な好みも確認しつつ修正作業を行った。

11) ただし兵役の執行が猶予されるのは、入学にあたりコントロールと呼ばれる全国统一学力テストの受験が課されている大学のみである。

述べたように、ギーラーン在住の回答者からの消極的なレスポンスが象徴的である。また、テヘラン、キャラジ在住者の緑地管理業務の例でも示したとおり、同じ状況下においても「就業中」と判断する者と、そうではないと判断する者とに分かれることが分かった。こうした認識の差異が何によって生じているのか、今後注意深く検討する必要がある。

その他の項目で反応が鈍かったのは、主婦になった状況に関する項目と収入／支出に関する項目である。前者については当初、レイアウトの問題で質問の意図が分かりづらいとの指摘を受け、その後改良を試みたものの思うような結果が得られなかった。この項目や家事負担状況に関する項目について、ある回答者から「こういった質問があることで、このアンケート調査は対象をテヘラン在住の20代～30代に限定しているように感じてしまい回答に対して消極的になってしまおうだろう。なぜなら地方在住の中高年女性にとって、家事を分担するなど夢にも思いつかないだろうし、主婦以外の選択肢があったなんて想像だに出来ない人が多いと思う。」との意見が寄せられた。すなわち、中高年の多くの主婦層にとっては、適齢期に結婚して主婦になること、主婦として家事・育児を切り盛りすることは疑問の余地を挟むのとなどあり得ないライフコースであり、このように考える人々は特に地方部に多いというわけである。かかる主婦層にとっては、夫に家事を担わせるのは主婦としてむしろ「恥」となる。したがって家庭内における彼女達の裁量のあり方や夫との関係性を把握するために、質問項目を改めて精査する必要があるだろう。

また収入／支出に関しては、経済事情の細部を他人にさらけ出すのが苦痛である以前に、そもそもインフレーションの激しいイランにおいて収入や支出の表面的な金額を聞いても無意味であるとの意見が寄せられた。特に支出についてはインフレーションのせいで日々右肩上がりとなっており、金額の大きさそのものを把握することへの意識はそれほど高くない。

以上のように、イランの固有事情を探るべく設

計した調査票ではあったが、残念ながらいくつかの項目で同国の実情にそぐわない箇所が明らかとなった。この点を補うために、対象者に応じて何パターンかの調査票を用意することや、並行してインタビュー調査を行うなど、調査手法にも改善の余地が大きいと考えられる。

## おわりに

本調査から就業や結婚など人生の節目で社会的ネットワークが活用されている実態が確認され、また、NGOや環境整備活動に従事する高学歴女性という新たな動きも観察された。

その一方で、大都市テヘランないしその近郊地域と地方との認識のギャップが浮き彫りとなった。なお、学卒後の女性たちが家庭外での就業機会をなかなか得られずにいる様子や、それに対する自己評価が確定せずにいる状況が、断片的にはあるが確認された。

今後の調査では、彼女たちのより具体的な状況を把握し、公的統計では伺い知ることのできないイラン女性の活動実態を明らかにしていきたい。なおそのためには、対象者ごとに調査手法の選定を行うことが好ましいと考えられる。

謝辞：本調査の実施に当たってはテヘラン大学大学院文学部外国人コース所属岡村恵美さん、北海道大学大学院工学院博士課程所属ショジャーイ・アミールさんより多大な支援を賜った。社会調査の実施が困難を極めるイランという国で、外国人である筆者が現地調査を実現出来たのは、一重に両氏の御尽力の賜物である。この場を借りて感謝したい。

付記：本稿は、JSPS 科研費（研究活動スタート支援）26883001 の助成を受けたものです。

## 参考文献／資料

村上明子（2011）「イランにおける女性就業の現状：テヘラン市・ホワイトカラー層の事例分析」、『経済社会学会年報 XXX Ⅲ・2011』, p. 151-p. 162。

———（2013）『現代イランの女性労働』, 平成 24 年度北海道大学大学院経済学研究科博士論文。

Central Bank of Iran, *Economic Trends No.63, Fourth Quarter 1391(2012/13)*.

*Economic Trends No.67, Fourth Quarter 1390(2011/12)*.

*Economic Trends No.71, Fourth Quarter 1389(2010/11)*.

*Economic Trends No.75, Fourth Quarter 1392 (2013/14)*.

Egel, E. and Salehi-Isfahani, D. (2010) *Youth Transitions to Employment and Marriage in Iran: Evidence from the School to Work Transition Survey*, Middle East Youth Initiative Working Paper, Dubai School of Government.

Rezai-Rashti, Goli M. and Moghadam, Valentine M. (2011) "Women and higher education in Iran: What are the implications for employment and the 'marriage market'?", *International Review of Education*, Volume 57, p419-p441.

Gorūh-e Pajuheshī Āmār-hā-ye Eqtesādī, 1381, *Ravesh Andāze Gīr-e Bakhsh-e Gheir-e Rasīmī dar Iran*, Markaz-e Āmār-e Iran. (経済統計調査グループ, 2002/03 年, 『イランにおけるインフォーマルセクター測定方法』, イラン統計センター。)

Markaz-e Āmār-e Iran, *Salnāme-ye Āmār-e Keshavar 1391*.

(イラン統計センター, 『イラン統計年鑑 2012/13 年度』。)

※『イラン統計年鑑』各年度版についてはイラン統計センターウェブサイト <http://www.amar.org.ir/default.aspx> より入手可能。(最終閲覧日: 2014 年 12 月 15 日)

## オンライン資料

Statistical Center of Iran, A Selection of Labor Force Survey Results - Spring 1393 (21 March 2014 - 21 June 2014).

<http://www.amar.org.ir/Default.aspx?tabid=1242&articleType=ArticleView&articleId=1663> (最終閲覧日: 2014 年 12 月 15 日)

Central Bank of Iran, Foreign Exchange Rates.

[http://www.cbi.ir/ExRates/rates\\_en.aspx](http://www.cbi.ir/ExRates/rates_en.aspx) (最終閲覧日: 2014 年 12 月 15 日)

巻末資料

生活状況に関するアンケート調査  
北海道大学大学院経済学研究科  
(※日本語版)

お願い：

1. この調査は、イラン家庭における男女の活動状況把握を目的に日本の北海道大学大学院経済学研究科教員が実施するものです。この調査結果は研究の進捗のために用いられ、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、是非ご協力ください。

2. 調査の結果は、研究目的にのみ利用します。あなたの名前はもとより個々の回答をそのまゝの形で公表することは絶対にありませんので、安心してありのままをご回答ください。

3. 設問へのご回答は、選択肢がある場合には該当するものを✓で選んでください。それ以外の場合は適宜ご記入ください。

4. もしも答えたくない質問がありましたら、無理に回答せずに、その後の回答可能な質問に適宜お答えください。

以上、よろしくようお願い申し上げます。  
村上 明子

※筆者メールアドレスをここに記載

問1 あなた自身について  
(項目ごとに当てはまるものに✓、また必要に応じて適宜ご記入ください。)

|                                |                                                                                                              |                                                                  |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 性別                             | ○男                                                                                                           | ○女                                                               |
| 年齢                             | ____ 歳                                                                                                       |                                                                  |
| 最終学歴                           | ○小学校<br>○中学校<br>○大学<br>○修士<br>○その他 ( )                                                                       | ○高校普通科<br>○高校技能・実業科                                              |
| 婚姻状況                           | ○配偶者あり<br>○1人<br>○2人<br>○3人以上<br>○子供はいない                                                                     | ○離婚<br>○未婚                                                       |
| 家族構成                           | 家族の人数 _____ 人                                                                                                |                                                                  |
| 出生地                            | ■あなた自身 _____ 州 _____ 市 (郡)<br>■父親 _____ 州 _____ 市 (郡)<br>■母親 _____ 州 _____ 市 (郡)<br>■配偶者 _____ 州 _____ 市 (郡) |                                                                  |
| 現在の居住地                         | ____ ◀ 記入例 ギーシャ <sup>14)</sup>                                                                               |                                                                  |
| あなたが属する<br>エスニック・グループは次のどれですか？ | ○アゼリー<br>○トルクメン<br>○ペルシャ<br>○ギェーラーン<br>○その他 ( )                                                              | ○アルメニア<br>○アラブ<br>○マザーダラン<br>○バクルーチ<br>○クルド<br>○マザーダラン<br>○分からない |
| ペルシャ語以外の使用言語はありますか？            | ○アゼリー語<br>○アラビア語<br>○トルクメン語<br>○ペルシャ語<br>○フランス語<br>○ロシア語<br>○英語<br>○バクルーチ語<br>○クルド語<br>○マザーダラン語<br>○その他 ( )  | ○トルクメン語<br>○ギェーラーン語                                              |

問2 現在の活動状況について

2-1) 現在お仕事をされていますか？

1. はい ▶ 現在のお仕事をご記入ください。 (記入例 公務員)

2. いいえ ▶ 現在は主に何をされていますか？  
記入例 主婦 (主に時間を費やしている仕事以外の活動をご記入下さい。)

■2-1で「1. はい」とお答えの方にお尋ねします：

A) あなたの1日の就業時間はどのくらいですか？  
○3時間未満  
○3時間以上5時間未満  
○5時間以上8時間未満  
○8時間以上

B) どのようにして仕事を見つけたか？  
○新聞の求人広告  
○学校の求人情報  
○友人・知人の紹介  
○職場での求人  
○その他 ( )

C) 現職の就業期間はどのくらいですか？  
○1ヶ月未満  
○1ヶ月以上6ヶ月未満  
○6ヶ月以上1年未満  
○1年以上5年未満  
○5年以上10年未満  
○10年以上

D) 現職を選ぶにあたり、重視したことは次のどれですか？優先順位の上位3を数字で記入下さい。  
記入例：あなたにとって最重要事項が「自宅からの距離」、次に重要なのが「就業時間」ならば「自宅からの距離」横の□に“1”，「就業時間」横の□に“2”と記入してください。

女性の方のみお答えください

|                               |                                |                                |                                  |
|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 給料   | <input type="checkbox"/> 福利厚生  | <input type="checkbox"/> 就業時間  | <input type="checkbox"/> 自宅からの距離 |
| <input type="checkbox"/> 仕事内容 | <input type="checkbox"/> 職場の評判 | <input type="checkbox"/> 家族の意見 | <input type="checkbox"/> その他 ( ) |

■2-1で「2. いいえ」を選択の上「主婦」と回答された方にお尋ねします：

A) 主婦になったのはいつですか？  
○学卒後  
○結婚後  
○出産後  
○その他 ( )

B) 主婦になる前に就業経験があれば、その職種をご記入ください。  
○はい (職種/活動内容 )  
○就業経験なし

C) 「主婦」になることを選択するにあたり、決定したのは誰ですか？  
○父  
○母  
○配偶者  
○あなた自身  
○その他 ( )

問3 結婚について (既婚者または婚約中の方は以下の質問にご回答下さい)

3-1) 何歳で結婚されましたか？  
▶ あなた自身 \_\_\_\_\_ 歳

3-2) あなたの結婚年齢についてどう思いますか？  
1. 非常に早い  
2. 少し早い  
3. ちょうど良い  
4. 少し遅い  
5. 非常に遅い

14) 記入例として挙げられている“ギーシャ”はテヘラン市内の2区に位置する地域で、イランで最も高いシーラー・ドタワーがすぐそばにある。

3-3) 配偶者（もしくは婚約者）とはどのようにして知り合いましたか？

○学校で

○職場で

○友人・知人の紹介

○その他（

○パーティで

○その他（

3-4) 結婚を決める上で、あなたが重視したことは以下のどれですか？

(優先順位が高い順に順位付けをしてください。)

人柄

学歴

経済状況

外見

家柄

家族の意見

家庭状況

その他（

問4 家事と関連事項について

4-1) 家事負担について

▶あなたが負担している家事

○掃除

○洗濯物（食器・衣類）

▶“食器”“衣類”のうち当てはまるものを更に選択

○炊事

○子守

○子供の送り迎え

○子供に勉強を教える

○子供の世話の手伝い

○買い物

○その他（

▶配偶者が負担している家事

○掃除

○洗濯物（食器・衣類）

▶“食器”“衣類”のうち当てはまるものを更に選択

○炊事

○子守

○子供の送り迎え

○子供に勉強を教える

○子供の世話の手伝い

○買い物

○その他（

4-2) 家計管理について責任を持っているのはどなたですか？

○主にあなた

○主に配偶者

○配偶者と相談して決める

○その他（

4-3) 1ヶ月の全収入はどのくらいですか？

○600万円未満

○600万円～800万円

○800万円～1000万円

○1000万円～2000万円

○2000万円～5000万円

○5000万円以上

4-4) あなたの家庭の1ヶ月の支出について、それぞれの項目についてお答え下さい。分らない場合は“分からない”とご記入下さい。また該当する項目がない場合はお書きになる必要はありません。

1. 家賃

リヤル

8. レクリエーション

リヤル

2. 食費

リヤル

9. 教育費

リヤル

3. 水道光熱費

リヤル

10. 交際費

リヤル

4. 衣料費

リヤル

11. ローン支払い

リヤル

5. 電話

リヤル

12. 貯金・保険

リヤル

6. 交通費

リヤル

13. 医療費、薬代

リヤル

7. 子供や親への仕送り

リヤル

14. その他

リヤル

問5 仕事や生活の満足度についてそれぞれ当てはまるものを選んで下さい

5-1) 今とは違う仕事や活動をしたいと思いますか？

全く希望しない

どちらかと言えば希望しない

どちらとも言えない

どちらかと言えば希望する

完全に希望する

1

2

3

4

5

5-2) 家族による家事のサポートは十分ですか？

非常に少ない

少ない

どちらとも言えない

多い

非常に多い

1

2

3

4

5

5-3) 家族からあなたの活動・収入に対する敬意は十分だと感じますか？

非常に少ない

少ない

どちらとも言えない

多い

非常に多い

1

2

3

4

5

問6 家族と生活の現状認識について

6-1) あなたにとって家庭で大事なことは何ですか？以下にご記入ください。

6-2) 現在、生活をする上であなたが困難に感じていることは何ですか？以下にご記入下さい。

問7 日課の活動状況・時間配分について

1日に下記の活動にどのくらい時間を費やしていますか？平均時間をご記入下さい。

■仕事

時間

■家事

時間

■ボランティア・慈善活動

時間

■学習・文化活動

時間

■社会参加

時間

■レクリエーション

時間

■運動

時間

■メディア・インターネットの利用

時間

ご協力ありがとうございました。